

点検ハンマー

第7号 発行日 2011年 7月31日 発 責 石尾 光春・編 集 地本車技常任委員会

忘れてはならない！

3・11 東日本大震災での苦労を！！

3月11日東日本大震災から4ヶ月半が過ぎました。死者15600名以上、行方不明者5000名以上。福島県だけでも津波被害と福島第一原発事故で、県外避難者が約3万6千人も出ています。福島第一原発による放射能汚染の被害は拡大するばかりで、福島第一原発を廃炉にするまで数十年はかかると言われ、いまだに復興の見通しが立ったとは言えず、私たちも胸が痛みます。被災地では多くの企業が「事業継続の危機」に陥っています。

そんな中でも再開を信じて「これまで一緒にやってきた社員を解雇したくない」「また皆で工場を操業するんだ！」と頑張っている経営者・社員・パート従業員の皆さんの姿が、テレビ等で報道されました。私たちは、3・11大震災を通して、経営者、労働者の立場を越えた姿や、避難所で助け合っている姿に、現代人が忘れかけていた「人と人の絆」「助け合いの大切さ」を痛感した方も多いと思います。3・11大震災で、首都圏の交通網も大打撃を受け、何万人もの帰宅難民者が出ました。

車両所でも、自宅に帰れない社員や出勤できない社員が多数いました。夜勤で出勤途中で地震が起きて、電車は停まったまま。3時間以上も経ってやっと救助隊が来て、線路を歩き最寄りの駅に。会社に電話が繋がらず、先に進むことができず、やむを得ず歩いて自宅まで引き返した社員。また、歩いて会社を目指したが、途中で夜が明けてしまった社員もいます。会社や家族との電話が全く繋がらず、大変な苦労をしたと思いますが、このように苦労した社員に対して、安否確認や出勤状況の確認をする管理者が、「なぜ途中で帰ったのですか！」「あなたは出勤する気があるのですか！」「バスを乗り継いで来て下さい！」等と状況を全く無視したことを言ったり、また、電話に出た家族に対して「失礼な言い方」をするということがありました。「100年に1度」とも言われる今回の大震災の中で、皆さんがどれだけ苦労をしたのか？会社の対応はどうだったのか？を思い出してみてください。千葉ではコンビナートが爆発炎上したり、液状化による地盤沈下、交通網が寸断されていることなどを会社は知っていたが教えなかったのです！

忘れてはならない！

非道な「忌引き問題」から3ヶ月！！

震災時の安否確認は社員のことを心配して行われていたのか？ 食堂の飯もなくなったのに、乾パンも出なかった！ 終了点呼で地震の状況も鉄道情報も知らされなかった！ なぜもっと早く帰してくれたかったのか！ 食堂のメニュー品は無くなったとしても腹を空かせた社員たちに、握り飯も出せなかったのか！と会社の対応に不満の声が多く出ました。親が亡くなっているのに働かせた非道な「忌引き問題」も根本は同じ！ 社員のことなどは二の次！ やむを得なかったと言うのなら、タクシー代は箇所長（所長）判断で出せなかったのか？と思うのですが、親が死んでも働かす「命令と服従」のJR東海会社の対応を皆さんはどう思いますか？？